

令和7年度第1回(通算1回)
天理市下水道事業経営審議会 議事録

会議名称	令和7年度第1回天理市下水道事業経営審議会
開催日時	令和7年10月21日(火) 15:00 ~ 16:15
開催場所	奈良県広域水道企業団天理事務所 2階会議室
出席委員 (50音順、 敬称略)	伊藤忠通(会長) 内田滋 榎堀秀樹 大橋基之 川崎祥記 鴻田好彦 古崎康哲 竹谷俊夫 中尾勉 吉村匡司
欠席委員 (敬称略)	中室克彦(副会長)
出席職員	並河(市長) 南(建設部長) 山村(建設部次長) 辻本(下水道課参事) 北野(下水道課長補佐) 野崎(下水道課主査) 山上(下水道課主査)
会議次第	1. 開会 2. 委員紹介 3. 事務局紹介 4. 市長あいさつ 5. 会長、副会長選出 6. 会長あいさつ 7. 議事 (1) 議事録署名人の指名 (2) 令和6年度下水道事業の財政状況について (3) 天理市の下水道事業の現状と今後について (4) その他 8. 事務連絡 9. 閉会

議事内容

司会	<p>【開会】</p> <p>【委員紹介】</p> <p>【事務局紹介】</p>
市長	<p>【市長あいさつ】</p>
司会	<p>(市長退席)</p>
会長	<p>【会長、副会長選出】</p>
議長	<p>【会長あいさつ】</p> <p>早速でございますが、議事を進めてまいりたいと思います。</p> <p>議事進行にご協力よろしくお願ひいたします。では本日の議事の1番目でございますが「議事録署名人の指名」について、事務局にお尋ねします。今回はどなたになりますでしょうか。</p> <p>【議事録署名人の指名】</p> <p>では続きまして、本日の議事の2番目でございます。「令和6年度下水道事業の財政状況について」事務局から報告をお願いいたします。</p>
事務局	<p>【令和6年度下水道事業の財政状況についての説明】※別紙1</p>
議長	<p>ご説明ありがとうございました。今の説明内容につきましてご質問、ご意見ございましたらお願ひいたします。いかがでしょうか。</p>
委員	<p>先ほどのプロジェクターでお示しになった資料では、9ページの右半分の上のところで、12億4,300万が30億4,700万から補填されているということですが、この30億の12億引いた残りの部分はこれから利用可能ということでおろしいですか。それとも毎年可能額は変わるわけですか。</p>
事務局	<p>おっしゃる通り、右上の補てん財源の内訳の合計のところでございます。今引き算していただいて18億というお話をい</p>

	<p>ただいたと思いますが、それが 10 ページのところにあります 緑色の点線ですね。これが 6 年度が 18 億、どんどん上昇して 内部留保が上がっているというところで、10 ページの一番下 の表にちょうど数字が書いていますが、18 億 400 万。これが 18 億ということになっております。つまり内部留保資金があ って、そこから資本的収支で不足があったら引きます。また次 の年には、同様の減価償却費がまた計上されて、利益が出てい るということで積み上げていきますので、どんどんここは変 化していきます。そのため、令和 6 年度末が 18 億あるとい うような状況になっております。</p>
議長	<p>他の委員はいかがでしょうか。なければまた後で時間を取 りますので。では引き続き、次の 3 番目の議事でございます が、天理市の下水道事業の現状と今後についてということで、 説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>【天理市の下水道事業の現状と今後についての説明】※別紙 2</p>
議長	<p>説明ありがとうございました。それでは説明いただいた内 容について、何かご意見あるいはご質問ございましたらお願 いいたします。事前に皆さん、お手元に届いている資料に、経 営戦略の中に記載してあることでも結構ですので、どうでし ょうか。</p>
委員	<p>今ですね、事務局からお話がありました、最後のウォーター PPP の導入。非常に難しいことを話されましたが、素人の考 えでありますが、ウォーター PPP、これは下水道だけでなく、 PFI などもそうですが、平常時は、何もなかったら、PPP とい うのはいいかと思います。ところが非常時に PPP に任せて本 当に対処できるのか、また建設業界が非常に労働力不足で人 が足りない状態です。朝日新聞は 8 掛け社会といっています が、40 年には 1,100 万人以上の労働者が不足すると予想して</p>

	おります。そういう中で、大きな下水道事業、国が進めているといつて各市町村を合わせて全国でたくさんあります。それを引き受けてくれる業者が果たしてあるのかといったようなことを思いました。意見ではないです、感想ですが。
事務局	どうも貴重なご意見ありがとうございます。我々もこのPPPの導入の方向に向かうのではなく、まず PPP というのはどういうものか、天理市に PPP の導入がいいのか悪いのかという地点からも一度調査研究を行っていく必要があると考えております。国が言っているからといってそのまま進んでいくと、今委員のおっしゃられたように、労働力不足や、また災害時にはどのような対応になっていくかということもいろんなことをシミュレーションしなければならないと思いますので、この辺りについても、先に導入している各市の状況や、全国的な流れも考えながら慎重に考えていき、調査研究を進めていこうと考えております。
議長	ありがとうございました。他にいかがでしょうか。
委員	私の方から質問させていただきます。最初に説明していただいた資料 1 で、3 ページです。下水道事業費用の増加要因に流域下水道維持管理負担金で水質負担分の増加とありますが、それに関連して水質使用料、ここで水質が悪くなった、量もですが、水質の状況です。水質負担分の増加というのは具体的にどういうことを指しているのでしょうか。悪い水質のものを排出しているのか、単に量が増えたから負担分が増えているのか。
事務局	流域下水道維持管理負担金というのは、水量の部分と水質の部分と 2 種類ございます。水量というのは排水量に応じて県に支払う部分ですが、水質負担分というのは、各ご家庭ではないですが事業者さんです。水質の悪いもの、例えば油など、そういういった流域下水道の施設、浄化センターに過度な負担に

	なるようなものを排出する場合は、その分やはり費用がかかるということになりますので、そのためにそういった事業者さんはピックアップをしまして、市からも各事業者さんにいただいておりまして、それを県にお支払いするという形になっております。水質が悪いところは、各事業者さんを調べたうえでかけていくというところでございます。一定以上の水量の事業者で、ある水質項目が一定基準以上になりましたら、いただくということになっております。
委員	それはチェックされているわけですね。
事務局	チェックしております。
委員	負担が増加しているということは水質が悪くなっているということですか。
事務局	はい。
委員	水質が悪いところが増えているということですね。
事務局	はい。
委員	あともう 1 点、技術上の問題ですが、10 ページのところに職員の数が書いてありますが、技術職員 5 名で、技能職員も含めてでしょうが、この職員の数で対応できているのか心配しているのですが、どうでしょうか。
事務局	委員が言われる通り、実質何とかやっているという状況が今の状況というところです。今も本来であれば、老朽化対策を進めなければいけない。人員のために事業が拡大できないというのは、この下水道事業以外でも、今やはり建設技術系の職員、これはもう建設業自体で若手、担い手不足が発生しておりまして、今この下水道課におきましても、かなり制約された人員の中で精一杯のところを進めております。市長部局、建設部においても、人が余っているというのではなく、すべての場においては人が少ない。この 2、3 年、天理市に入っていただく技術者さん、応募が少なく、長く 20 代の職員はほとんどゼロに

	近い、1名、2名というところになっております。今後、かなりそういったところで人員の配置、よく民間連携という國の方針が出てるというのがあり、今のところ何とか進めている状況で、どんどんこのままいけば事業量は減るというところも想定内で、今人員確保に向けて、理事者サイドと協議を進めている状況で、頑張っている状況です。
委員	今のお答えの中の公民連携です。自前の職員は不足しているが、民間の力を借りていくという方向性はありますか。
事務局	今現実、我々が接しているところではまだ難しいというのが事実です。地方公共団体はやはり規模が小さいです。今、国の打ち立てているのは最終章で、経営も含めたというような話になれば、利益があるのか。ここは非常に苦しいところがありまして、打ち立てているのは理想に近いのかという、我々は具体的にはまだイメージがわかない。今 DX 推進も進められているのは、お金は高いです。ただ、人がいないから進めないといけないというような状況で、決して安くつくわけではない。ただ人がいないからデジタル化によって進めようというのはあります。ただ市町村にはまだ導入は難しいのではないかというのが本音のところです。
議長	他の委員の方、何か。
委員	資料 2 の事業経営戦略、10 年計画になってますが、3 月時点での結果を基準にしていると思いますが、将来的なこの数字については、ある程度物価上昇率とかも織り込んだ形になっていますか。あるいは、適宜見直されるような計画になっていますか。
事務局	物価上昇率、労務費の上昇は、この経営戦略ができたのは令和 7 年 3 月ですので、その辺りは見込んでの計画を立てております。令和 7 年度から令和 16 年ということで、10 年計画にはなっているのですが、国からも適宜見直すということで言

	われておりますので、ここはまた見直した上で経営戦略を立てていくということになります。その際にはこの経営審議会の中でも議論をいただくというようなことになります。
議長	他にいかがでしょうか。
委員	農業集落排水施設のところで見ていくと、接続率がなかなか上がっていないような資料がありますが、何か事情などあるのでしょうか。
事務局	東部山間地区の集落排水事業、これは水道事業も同じですが、やはり実際、人口が減少している、過疎化とは言いませんが、かなり人口が減少してきております。一時期我々の若いときですが、東部山間に水を、上水を上げる、下水は集落排水というような形で、かなり天理市は先進して進めたところにあると思いますが、やはり利用される方、料金がかかるということで、結構やはり井戸水使われていたりというのも実際ありますし、今天理市は東部山間においてもかなりの90何%に近い状態で進めていますが、使用量が上がらないというのはそこにあるのではと考えております。
委員	もうすでに浄化槽を持っている方が多いなどもあるのでしょうか。
事務局	そうですね。浄化槽の補助金も、一時期平野部においても同じように下水を延ばす費用と、一時期浄化槽の補助金に頼っているところもありますので、そういうところも存在しているのが現状だと思います。
委員	集落排水も施設の更新のタイミングで下水につなぐという話も聞きますが、こちらは何か計画等はあるのでしょうか。
事務局	県の流域に接続するということですか。やはり高低差などあります。下水は基本自然流下。その高低差の中で、要は谷に下がったところに集めたのが処理場になります。そこから一山越えるというところが、やはり現実的には難しい。特に東部

	山間、土質的には硬質的なところに入るので、現実その莫大な費用はなかなかできないというのが現状だと思います。
議長	<p>他にいかがでしょうか。特にございませんか。まだ課題があるようでございますが、議事を進めてまいりたいと思います。</p> <p>最後、4番目のその他です。全体を通して何かありましたら、以前の議題にしても結構ですが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>資料2の17ページに老朽化率というものが下の図で書かれています。これが令和4年でしたら、平均値が2.08で、天理市さんは令和6年で4.11ということで、平均より非常に高い値になっているところが気になるのですが、最近取り組まれていて、この形になつていています。この値からして、この平均に近づけていく計画を立てられているとは思っています。この数字自体最近なので、すべてが入っているのかわからないところがありますが、数字が高いところが気になったので、何かありますか。</p>
事務局	<p>天理市が令和5年度に4.11というところですが、これにつきましては法定耐用年数、天理市が供用開始した年数が経過したというところで、今この4.11っていう数字が出てきたというところでございます。これにつきましても、我々の方では更新計画などを立てながら進めてはいきたいと、今計画を進めているところですが、今後また新しいところもどんどん古くなつていけば、この数値も変わるというところでございますので、これにつきましては一番有効な更新手段など、調査によって行って、今後の下水道の維持管理に努めてまいりたいと考えているところです。</p>
議長	他にいかがでしょうか。
委員	今の質問と関連してですが、老朽化率が4.11と急に上がっているというのは、そして他の市町村の平均値より高いということは、天理市がいち早く下水道を普及させたということ

	と関連するのですか。
事務局	その通りでございます。天理市は他市に比べて下水道を早くから普及させておりますので、その分やはり老朽化が早く進むというような現状でございます。
議長	他にございますか。今日は初回の審議会ですので、まだこれから次々と審議会を重ねていく中で課題なり、今後の方向性について皆様と議論をさせていただく機会があるかと思います。特になければ今日は議題としては以上で終了いたします。議事進行にご協力ありがとうございました。あと事務局にお返しします。
事務局	【事務連絡】
建設部長	【建設部長あいさつ】
司会	【閉会】